

各 位

2023年6月19日
株式会社天夢人

刃文(はもん)や地鉄(じがね)の精密な写真をふんだんに使って徹底解説！
刀剣ファンブックスシリーズ早くも第10弾
『写真でわかる刀の見方・鑑賞の極意』発刊

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:勝峰富雄)は、2023年6月19日に、刀剣ファンブックス010『写真でわかる刀の見方・鑑賞の極意』を刊行いたしました。



日本刀の入門書などでは、刃文(はもん)や地鉄(じがね)についての解説は大変重要なものと位置づけられていながら、誌面では伝統的にイラストなどを使って行われることがほとんどです。そのため、多くの刀剣入門者が実際に刀を手にとって鑑賞した際に「刃文や地鉄がよくわからない」という感想を抱きがちです。本書では、刀剣ファンが抱えるそうした思いを解決すべく、刀剣研究歴約40年、今も刀剣撮影の第一線で活躍する写真家である著者の刀剣写真を多数掲載。さらに氏の豊富な知見による解説を加え、「映(うつり)」「沸(にえ)」「匂(におい)」と呼ばれる微妙な働きなどまで、まさに徹底的に「写真でわかる」刀の見方の本としました。「本物の刀剣を間近で見る機会が少ない」という思いに応えた刀剣ファン待望の一冊です。

【目次】

1章 名刀を見る

狐ヶ崎 明石國行 姫鶴一文字 虎徹

2章 刀剣鑑賞の手順

刀姿を見る 重ね・棟・鎬を見る 地鉄を見る
映りを見る 刃文を見る 帽子を見る

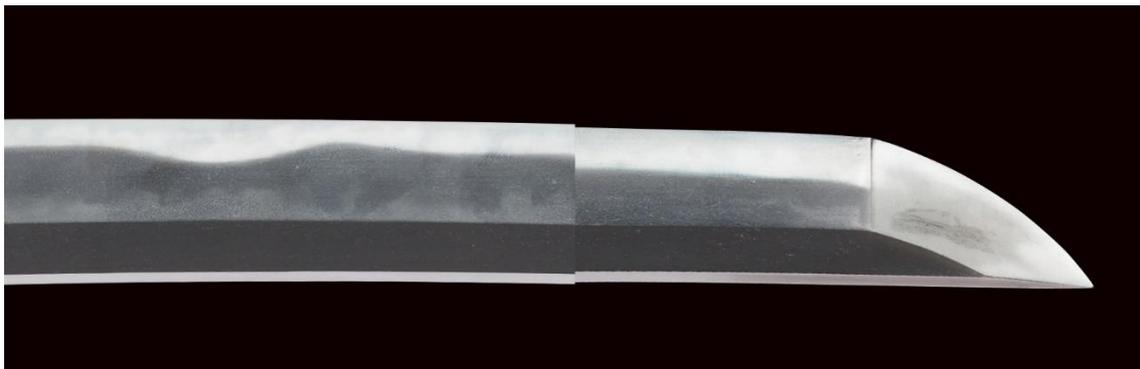
3章 写真で学ぶ刀の種類

地鉄 刃文 働き 帽子

4章 刀工・刀派の特徴

古刀編 新刀・新々刀編

(巻末) 本書に出てくる難解な刀剣用語



黒い斑状の暗帯部を伴う形で形成されており、地鉄状の映りが取れる

映りにもいくつか種類があるが、本作では直線的な「棒映り」ではなく、「乱映り」が立っている。合間に、油のついた手で触った跡のような黒い斑模様（暗帯部）を伴って形成しているように見えるので、地鉄状の映りといったほうが正確なのかもしれない。

一見ただけでは、青黒い地鉄にしか見えないかもしれない。しかし光を当てながらさまざまな角度で観察すると、刃文の影を思わせる、うっすらと白い影のようなものが見て取れる。これが「映り」で、備前物の代名詞として知られているが、青江物にも現れる。

地斑状の映り

黒い斑模様を伴った地斑状の映りが浮かぶ



焼話というのが公式見解のようだが、返りがあるように思われる

U字状に焼きが返るのが一般的だが、返らずに横側に抜けた「焼話帽子」も少なくない。本作の帽子については刀剣書では焼話と記されているが、うっすらとしか見えないものの、返りがあるように思われる。「焼話風」あるいは「小丸に返る」としたほうがよいのかもしれない。

切先・帽子

焼話か、返っているのか帽子の形状に着目しよう

平安・鎌倉時代初期の太刀といえば、切先が小さめの小切先を備え、優美な姿を示すのが通例だ。狐ヶ崎では、当時としては切先がやや延び、イノシンの首を思わせる形状にちなんだ「猪首」風の切先となっている。切先部分の刃文を「帽子」と呼ぶ。帽子は先のほうで逆



大丁子 二文字割房

丁子乱れの中でも特に高低がある大振り丁子乱れものを言う。鎌倉時代の備前には「一」に刻む刀工一派が出現。一文字派と呼ばれた。本作は備前一文字派から分かれた片山一文字派の祖・開房の作。他に高低のある大丁子となっている。類似刀工 備前一文字派。

特に高低がある大振りの丁子



蛙子丁子 長船光造

丁子の刃文で、尾張の部分が入みを帯び、腰が大きくびれ、足部分が高く伸びて、蛙子(わたまじやく)のように見えることから。備前守家・長船光造が得意としたほか、鎌倉時代の備前一文字派の刃文などにも見られる。類似刀工 長光の初開作、備前守家。

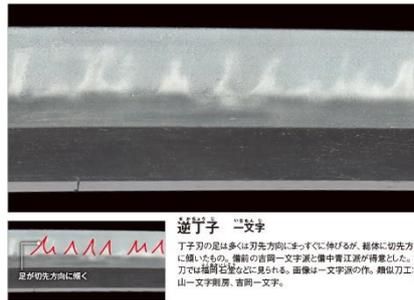
蛙子の刃文に見える



新々刀の丁子 大産匠流

鎌より上手とされた水心子正秀の高弟。五畿伝すべてに通じ、器用な刀工だが、特に備前派に傑作が多く、中でも最高級の丁子乱れを得意とした。丁子の足が刃先に掛り、長い金筋が入る。類似刀工 水心子派。

足が刃先に掛り、長い金筋が入る



逆丁子 二文字

丁子刃の足は多くは刃先方向にまっすぐに伸びるが、全体に切先方向に傾いたもの。備前の吉岡一文字派と備中曾江派が得意とした。新刀では備前石堂などに見られる。画像は一文字派の作。類似刀工 片山一文字派流、吉岡一文字。

足が切先方向に傾く



肥前帽子 近江大権造広

切先の刃文がふくらみ沿って(平行に)返るもの。肥前刀の特徴のひとつである帽子。画像は近江大権造広の作。

切先の刃文がふくらみ沿って

地蔵帽子 和泉守兼定

強く乱れ込んで丸く返り、横向きの地蔵の顔のように見えることからついた名称で、美濃伝に多く(返)が深いものが多い。画像は備前派の名工・和泉守兼定の作。

強く乱れ込んで丸く返り



左安吉帽子 左安吉

左安吉は大友の息子。異じて異門用中(山口尊長前)に移住したことから「異物左」とも呼ばれた。

異じて異門用中

大左帽子 大左

ふくらみ結れた切先に突き上げて鋭く返る筑州左文字一派に特徴的な帽子。大左は河原の代表的な刀工である。

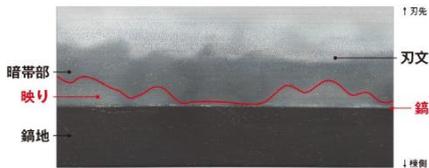
ふくらみ結れた切先に



ポイント 2 刀を離して見る

コブは刀身全体が目に入るくらい、刀を離して見ること。

映りの着目点



濃映り、段映りなどに分けられている。映りは自然光の下で見ることが難しい。コブは点光源を使いながら刀を離して見ていると、ある角度であわつて淡く光る白帯状の跡が見える。それが映りが浮いて見えるポイントだ。映りがベテランでも捉えることが難しく、映りが見えたら中級者から上級者と言えるだろう。博物館などで刀掛けに掛けられた日本刀の映りを見るコブを紹介しよう。展示刀から数歩離れ、刀全体が視野に入る位置でいろいろな角度から地鉄を眺める。そして目線をそろえ、少し離れた位置で、斜めから見たりして、映りが見える位置を探す。すると、特定の角度でふわっと浮き上がるように急に映りが見えることがある。チャレンジしてみよう。



ポイント 1 点光源に当てて見る

刀剣鑑賞の手順④ 映りを見る

映りは自然光の下で見ることが難しく、点光源を当てて鑑賞する。

謎の多い不思議な地鉄の働き。地鉄の次は映りに注意しなければならぬ。映りは地鉄に現れる白く浮き上がるような模様のこと。地鉄の働きは一種で、焼入れの際の熱処理により地鉄の部分に現れた鉄の結晶体が映り、まるで地鉄にも一つの刃文が映っているように見える。不思議な模様だ。映りの伝説は江戸時代に遡る。映りができる仕組みはまだ完全には解明されていない。映りが現れることを「映りが立つ」といいますが、そのほとんどが備前刀で、特に平安時代から南北朝時代の備前刀に多く見られる。そのため、句出来とともに備前刀の代名詞ともなっている。備前刀以外にも映りはあるが、そのほとんどが古刀で、乱映り、棟映り、沸映り(染映り)、白気映り(美

主要刀工・刀派の特徴一覧

山城国		地域
来国光	来国俊	刀派
錆造り。庵棟。見幅尋常、広め。重ね厚い。輪(中)反り深い。中鋒、やや延び、姿華社	錆造り。錆高め。庵棟。丸棟。輪(中)反り深い。中鋒猪首風。小鋒、姿は細身、豪社様に	錆造り。庵棟。見幅広く、輪(中)反り深い。猪首風。姿華社。元先の幅差や開く
平造り。冠落造り。三つ棟。重ね厚く、内反り。広快長。廻様々	平造り。三つ棟。庵棟。見幅尋常。内反り。短刀の名手	平造り。庵棟。見幅広く、わずかに反りつく。変換様一口
小振目詰む。肌立ちこころ。梨子地肌。鋭い来肌交じる。地沸よくつく。沸映り(染映り)	板目。小振目詰む。板目肌が顕著。鋭い来肌交じる。地沸よくつく。沸映り(染映り)	板目。小振目詰む。志肌文一口。やや肌立つ。地沸よくつく。沸映り(染映り)
中直刃。淡く湾れ。頭の丸い互の目。湯走り。棟焼かから。沸足。京逆足。匂口明るく冴える。区際を焼込む	直刃調に小丁子。小互の目。小乱れ。はつれ、打のけ。棟焼かから。京(下向き)逆足。匂口明るく冴える	丁子目立ち。大きい乱れ。物打ち刃。玉焼運れる。棟焼。湯走り。足先に沸こころ。匂口明るく冴える
直に小丸。持さかけ。火焔風。帽子の焼き強く冴える	直に小丸。持さかけ。二重刃。突りこころに深く冴える(雷土形)	乱れ込み小丸。湯強め。一枚風。突る。焼結
種柄。彫刻は素剣、梵字、護摩尊。栗尻。浅い勝手下がり。彫物様に寄る	種柄に素剣、護摩尊。栗尻。片面磨種(忘れ種)。彫物様に寄る	種丸く。栗尻。二字銘。大振りの行書体。護摩尊。彫物様に寄る

山城国		地域
鏡小路定利	五条派	刀派
錆造り。庵棟。見幅やや細身で広いものはない。腰反り深く、先削ぐ。小鋒。姿優美	錆造り。庵棟。見幅は細身。反り深く、小鋒。姿は優美。作品種有	錆造り。庵棟。見幅は細身。反り深く、先削ぐ。小鋒。姿は優美。元先の幅差開く
小振目詰む。流れ狂交じる。種柄な組合。地沸よくつく。淡く沸映り。地景よく入る	板目。小振目詰む。直交じる。肌立つ。地沸よくつく。地景よく入る	地肌は小振目詰む。大肌。狂こころ交じる。地沸よくつく。乱れ映り。地景よく入る
小丁子に小乱れ交じる。乱れの帯が詰まる。湯強。湯走り。二重刃かから。足。粟入る。匂口うるむ	直刃調に丁子乱れ。小乱。互の目交じる。足入る。金筋。砂流しかから。小沸つく。匂口うるむ	小互の目。小丁子。二重刃。三重刃風。半月形の打のけ。湯走り。煎焼かから。小足。金筋入る。匂口うるむ
乱れ込み小丸。持さかけ。火焔。湯強れこころ	小丸。僅かに乱れ込み。持さかけ。二重刃	乱れ込み小丸風。二重刃。持さかけ
二字銘。「定」草書体。「利」行書体でやや小振り	種柄。栗尻。二字銘。勝手下がり。鷹の羽	種柄は獅子彫形。栗尻。錆目は勝手下がり

山城国		地域
信国(延文)	了戒	刀派
錆造り。庵棟。見幅広い。先反りつく。姿華社。在銘太刀未見	錆造り。庵棟。見幅細身。重ね厚い。輪(中)反り深い。先も返る。小鋒。姿長寸。優美	錆造り。庵棟。見幅やや細身。広め。輪(中)反り深い。猪首風。中鋒。姿華社。細身の両棟
平造り。三つ棟。見幅広く、重ね厚みあり。淡く反り。寸延び	平造り。冠落造り。三つ棟。見幅尋常。重ね厚く、内反り	平造り。三つ棟。内反り。鉢三つ棟の中筋広い寸延び
板目。小振目詰む。志交じり。肌立つ。刃寄り深く。精良な鍛え。地沸よくつく	板目。小振目詰む。流れ狂目立つ。梨子地肌(来国俊風)。白気風映り。淡く沸映り	小振目詰む。肌立ちこころ。梨子地肌。鋭い来肌交じる。地沸よくつく。鮮明な沸映り
流れ調(相州伝良宗風)。互の目が二つ連れた刃文(部分的に矢筈風の縁り返し)。直刃調(山城伝)。はつれ	直刃が得意。匂口うるむ。互の目。小丁子交じる。小沸つく。逆足かから(来足)	中直刃。淡く湾れ。頭の丸い互の目交じる。湯走り。棟焼かから。金筋。砂流し目立つ。京(下向き)逆足
直に小丸。持さかけ。返り返り。返り寄る	直に小丸。焼結。深めに返る	直に小丸。大丸。突る。焼結
彫物得意。重ね彫多い。刀種の中に梵字。濃密な俱利伽羅。栗尻丸い	素剣。梵字。護摩尊。栗尻。片面磨種(忘れ種)。彫物様に寄る	彫刻は素剣、護摩尊。栗尻。浅い勝手下がり。三字銘。彫物様に寄る

山城国		地域
来国行	栗田口吉光	刀派
錆造り。庵棟。見幅細身。広め。輪反り深い。猪首風。中鋒。豪社と優美の両棟	在名作二振りのみ	錆造り。庵棟。見幅やや広く、腰反り深い。中鋒、やや詰まる。元先の幅差開かず
平造り。三つ棟。庵棟。内反り。重ね厚く、短刀の名手	平造り。三つ棟。庵棟。内反り。重ね厚く、短刀の名手	平造り。包丁風。庵棟。三つ棟。内反り。短刀が得意
小振目詰む。志目交じる。やや肌立つ。地沸よくつく。沸映り(染映り)。地景よく入る	小振目詰む。志目交じる。やや肌立つ。地沸よくつく。沸映り(染映り)。地景よく入る	板目よ詰み結露。鋭いあつて冴える。地沸よくつく。地景よく入る。淡く沸映り。地景よく入る
直刃調に丁子。小乱れ交じり。種柄に乱れる。種丸風の刃文(打のけ付風はも焼き)。蒸手丁子。棟焼かから	直刃。細直刃。物打刃の刃幅が狭くなる。種丸風の刃文(打のけ付風はも焼き)。互の目足。小足入る。腰元小互の目連れる	直刃調に淡く湾れ。小互の目交じり。二重刃目立つ。湯強運る。足。粟よく入る。匂口うるむ
乱れ込み小丸。直に小丸。二重刃。持さかけ。焼結	湯厚く筋状に返る(沸の食いがり)	直に小丸。焼結。太い二重刃。冴しい
種柄(幅が広い)。栗尻。錆目勝手下がり。切。二字銘。彫物様に寄る	銘は遊樂な行書体。表裏に同じ彫物。護摩尊。彫物様に寄る	栗尻。浅い勝手下がり。彫刻は表裏同一もある。護摩尊。彫物様に寄る

【著者プロフィール】

松本啓之亮(まつもとけいのすけ)

1958年、神戸市生まれ。東京写真専門学校(現・東京ビジュアルアーツ)卒業。スタジオABIを経て、写真家・横須賀功光氏に師事、その後、独立。フォトファクトリー創設に参加、化粧品や管楽器など主にスチールライフの写真を手がける。高校時代より工芸品としての日本刀に興味を持ち、上京してから日本美術刀剣保存協会の会員となる。フォトグラファーとなってからは、同協会東京支部会員として活動に参加。様々な試行錯誤を経て、高精細な日本刀の撮影技術を確立。美術館や展覧会の図録の撮影を数多く手がける。

【書誌情報】

書名: 刀剣ファンブックス 010『写真でわかる刀の見方・鑑賞の極意』

仕様: A5判 160ページ

定価: 2,750円(本体2,500円+税10%)

発売日: 2023年6月19日

全国書店、オンライン書店のAmazonなどで発売中。

<https://amzn.to/3QAL3mM>

【刀剣ファンブックスとは】

「刀剣ファンブックス」は日本刀の歴史や文化をさまざまなテーマで紐解く書籍シリーズです。以下のラインアップが刊行中です。

- ・001『日本刀入門 この一冊で魅力がわかる』「刀剣ファン」編集部 2,200円(税込)
- ・002『刀装具 新・解体新書』生田享子 2,420円(税込)
- ・003『日本刀が見た日本史 深くておもしろい刀の歴史』「刀剣ファン」編集部 1,980円(税込)
- ・004『名刀にあえる美術館・博物館・神社 国宝・重要文化財級の名刀鑑賞を楽しもう』「刀剣ファン」編集部 2,310円(税込)
- ・005『ビジュアル刀剣用語事典』「刀剣ファン」編集部 2,200円(税込)
- ・006『戦後日本刀事件史』土子民夫 2,090円(税込)
- ・007『国宝刀剣』「刀剣ファン」編集部 2,530円(税込)
- ・008『刀剣一問一答』誉田 優 1,980円(税込)
- ・009『刀装具 新・解体新書 2』生田享子 2,530円(税込)

【株式会社天夢人】 <https://www.temjin-g.co.jp/>

2007年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道(奇数月21日発売)』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証スタンダード市場 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の

高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当:野口

Tel: 03-6837-4680 / E-mail: info@temjin-g.co.jp

URL: <https://www.temjin-g.co.jp/>